

第39回大阪高校サマーテニストーナメント

大会役員

大会会長

木越 浩文 (ダンロップスポーツマーケティング)

大会委員長 (大会ディレクター兼レフェリー)

足立 哲也 (ダンロップスポーツマーケティング)

大会副委員長 (大会レフェリー)

岸上 啓幸 (関大北陽)

大会委員 (レフェリー)

岸本 圭司 (大阪成蹊) ・ 辻 博規 (大体大浪商)
北野 英敏 (太成学院大) ・ 府川 昭彦 (大阪学院大)
大上 典秀 (金蘭会) ・ 竹田 和樹 (関西福祉科学大)
大石 一星 (梅花) ・ 石橋 勇紀 (あべの翔学)
伊藤 大 (大阪金剛) ・ 坂本 光男 (大商学園)
二瀧 春輝 (四天王寺東) ・ 山崎 和也 (大阪商業大)
山田 貴司 (羽衣学園) ・ 廣田 充 (常翔啓光学園)
河野 剛 ・ 西山 義司 ・ 麻野 剛志 ・ 上野 克起
山根 正和 (ダンロップスポーツマーケティング)

進行係、補助員

各高等学校テニス部顧問

ダンロップスポーツマーケティングスタッフ

大会注意事項

1. 試合球について

今大会での使用球は「ダンロップ フォート」で、試合当日会場にて配布されます。

1 試合ごとに新球を使用しますので、集合受付時に各会場本部より新球 1 缶をもらってください。(会場の指示に従うこと)

なお試合対戦時に新球 1 缶だけ使用します。対戦後、試合の勝者は新球(未使用缶)を受け取ってください。敗者はその試合で使用したものを持ち帰ってください。

試合を欠席した選手は、試合当日に限り同校選手に持ち帰ってもらえます。(本部に届け出が必要)

2. 集合時間・出席の届け出について

集合時間は会場による指定がない限り 8 時 45 分で、試合開始は 9 時です。

集合時間の 2 部制を採用している会場は、集合時間を別途掲載します。

出席届け出までに、本人が試合可能な服装に更衣をした上、運営本部に出席を届け出ること。

指定時刻に出席が届いていない場合は棄権したものとみなします。

また、同じ学校選手で欠席が分かっている場合は本部に届けること。

ただし、雨天等で時間通りにコートが使用できない場合は、各会場で設定する試合開始予定時間の 15 分前までに出席を届ければよい。

3. 試合開始と進行

- ・原則として会場は午前 9 時より試合を開始する。(会場で指定があればそれに従う)
2 部制集合会場はその指示に従う。(集合時間以降に試合開始)
- ・試合は、オーダーオブプレーによりラウンドを考慮し、原則はドロ番号順に進行する。
- ・オーダーオブプレーに名前が貼り出された選手および発表のあった選手は、運営本部に指示通りに対応すること。(会場の指定があればそれに従う)
- ・試合は日程表に基づき進行するが、天候やその他やむを得ない理由により変更することがある。(中止時の残り試合などは別途設定される)
- ・スムーズな試合進行のため、会場レフェリーによりローカルルールを適用することがある。

4. 試合について

- ・服装と用具については、「JTAテニスルールブック・コードオブコンダクト・服装と用具」による。
- ・服装はテニスウェアに限る(男子の場合「シャツとショーツ」、女子の場合「ワンピース、またはシャツとスカートまたはショーツ」とする。セーター、カーディガン、ベスト類を着用し試合可)。インナー・スパッツは着用可。

服装の適否はレフェリーが最終判断し、必要に応じて服装の交換を指示される。

ただし、会場レフェリーがローカルルールを適用することがある。

※着用できない服装…テニスウェアと称されない服装（Tシャツ・ランニングシャツ・ランニングパンツなど、学校体操服も不可）。長袖、長ズボン（それに準ずる服装）。

- 服装の製造業者ロゴに関しては注意すること。大きさや数量に制限があります。
- 靴は必ずテニスシューズを使用すること。
- 時間の管理はアンパイアおよび会場レフェリーが行う。
- 一人が連続して試合をしなければならないときの休憩は、各会場レフェリーが判断する。

《試合の待機》

試合は進行表“オーダーオブプレー”により行うので、控えとなった選手は指定された場所またはコートサイドで待機し、前の試合が終われば直ちにそのコートに入り試合を始めること。また“オーダーオブプレー”の表示は変更する場合がありますので、待機中も常に“オーダーオブプレー”に注意をしておく必要がある。

時間に遅れた場合、失格となることがある。

《試合開始前に》

- コートに入ったら、必ず対戦相手を確認すること。
- コート内でのウォームアップは、原則としてサーブ4本のみとする。
- 試合はすべて「1セットマッチ（6ゲームズオールタイムブレイク）」とする。
- 試合はすべて“ノーレットルール（サービスのノーレット）”を採用します。
- 審判は、“セルフジャッジ”を採用します。
- コートに入れる人は、プレーヤー・レフェリーのみとします。（ボールパーソンは不可）

《試合中》

- プレーは最初のサービスから試合終了まで連続的に行われなければならない。
（25秒、90秒ルールの悪用禁止）
筋肉ケイレンについては、プレーヤーはエンド交代の時間内に限り処置を受けることができる。筋ケイレンの処置でMTO（メディカルタイムアウト）は与えられない。
- 試合が終了するまで許可を得ずコートを離れることは許されない。もし離れた場合はテニス規則に従って失格する。
- 選手は自分の側のコートに関して、「アウト」「フォールト」のみを、ハンドシグナルと声で即座に相手に分かるように伝えなければならない。
- セルフジャッジの試合は、サーバーはサーブを行う前に現在のポイントを相手に分かるようにコールしなければならない。レシーバーはコールが正しいか確認しなければならない。
- 不適切なジャッジは会場レフェリーが権限として、オーバールールする。
- 試合中は、同学校選手であってもコート外にいる者と一切会話はできない。

《試合終了後》

- 試合が終了したら両者の健闘をたたえ、スコアを確認した後コート中央で握手をする。
- 勝利者は、直ちに結果を本部に報告すること。

※ 注意 ※

- アウト、インの判定を巡って相手側コートへ行くことは認められない。

- ・試合中ラケットのガットが切れた場合、ラケットを交換してもいいし、そのまま最後まで試合を続行してもかまわない。(ただし次の試合からは交換したものを使用すること)
- ・プレーヤーは、試合中は何人からいかなる方法においてもアドバイスを受けてはならない。また、誰であってもプレーヤーにアドバイスをしてはならない。
- ・コーチは試合中あるいはトーナメント会場内で、相手選手、アンパイア、観客、トーナメント役員などに対して、言葉やジェスチャーを使った侮辱や、暴力を振るってはならない。レフェリーは試合コートあるいはトーナメント会場からの退場を命じ、その選手を失格にすることができる。
- ・「チェアアンパイアがつかない試合方法（セルフジャッジ）」について下記記述を研鑽すること。

【ノーレットルール】

- ・サービスレットを採用せず、サービスがネット・ストラップ・バンドに触れたとしてもインプレーとする。

【セルジャッジ5原則】

- ① 判定が難しい場合は「グッド」（相手を有利に）！
- ② 「アウト」または「フォールト」はボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたとき！
- ③ サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声でアナウンス！
- ④ ジャッジコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに！
- ⑤ コートの外の人には、セルジャッジへの口出しはしない！

5. 持ち物とごみについて

- ・持ち物（特に貴重品）は各自が責任を持って管理すること。
- ・大会会場の美化には、最大限協力しなければならない。
- ・「ごみ」は必ず各自で処分すること。
- ・「ごみ」の放置を発見した場合は、以降の参加を制限する場合がある。

6. その他

- ・悪天候により大会運営が困難になった場合、本大会要項並びに試合内容を変更して開催する場合がある。
- ・試合において不正があった場合、また器物破損などの暴行を働いた場合は、その生徒の所属する学校へ厳重に注意を行う。
- ・プレーの妨げになるので、コートサイド・通路等では騒いだり、大声を出したりしてはならない。
- ・レフェリーや会場の係りの指示・注意を守り、テニスプレーヤーにふさわしい行動をとること。（スポーツマンシップの遵守）

- ・規則・注意事項に関して、再三注意を受けても守らない場合は、テニス規則により失格とすることがある。
- ・『TENNIS RULE BOOK 2025』（ルールブック）などにより、日頃からルールやマナーの研鑽に努めること。
- ・会場には、バイクや車を運転して来ることを禁ずる。
- ・大会会場において動画・静止画を撮影される場合は、必ず相手側にも了承を得るなどし、無断撮影をしないこと。たとえ了承を得て撮影されても、本人の同意なくSNSなどに投稿する行為を禁止します。
また本人のみ撮影する場合も、他の方の映り込みなどには十分注意を払うこと。